穀多し、貨するに道なし、大河なきにあらずと雖、水路所多く船を通じがたきを以て、諸産物皆牛馬人力を勞するにあらざれば遠く運送しがたし、是に於て米穀封域に充滿して、價甚賤し、故に上下富る者少し、封君年々數万石の米穀價を貴くして民に買ひ、又賤くして民に賣、これを封内にて御捨米と唱ふ、下民の貧困を救ふの一仁政と云ふべきなり、此等皆風土異にして、民利又同じからざるの一端なり、海内の諸封域悉く知るべきにあらざれども、此一端の理を以て風土を察し、地勢を鑑みる時は、民利の多少、物價の貴賤、亦指掌して知るべきなり、

名所

〔日本鹿子九〕同國〇陸奥　名所舊跡之部

安積山　安積郡のうちにある山也、安積の沼といふも同じ所にあり、古今の序ニ、うねめ、

あさか山かげさへみゆる山の井の淺くは人をおもふものかは

信夫山　海邊にある山也、信夫の湯と云もひとつ所也、信夫郡のうちなり、

をのれのみ春をや獨忍ぶ山花に籠れるうぐひすのこゑ

盤提山　口しの一入染のうすもみぢいはでの山はさぞ時雨らん

末松山　海邊に有山也、後拾遺戀のうたに、清原元輔、

ちぎりきなかたみに袖をぞほりつゝ末の松山浪こさじとは

無古曾關　東路の名こそのの關も有物をいかでかはるの越てきぬらん

白川關　山みちなり、白川とはいへども川はなし、左大辨親宗のうたに、

紅葉はのみな紅に散しけばなのみなりけり白川の關

衣關　衣川といふもあり、俗にむさし坊辨けい、此所にてうち死せし衣るしの松と云も、此川の中の瀬にあり、そのほか鈴木兄弟腹きりたる所とて、衣るしの松と云あり、いづみが城のあと有高館の舊跡、名のみ殘ていまにあり、